

歴史 の風

ふくおか 文化財だより



Vol.18 2018年12月号

～市民による活用第1弾！～

てのひら盆栽 「多聞櫓」で開催

11月10日(土)・11日(日), 国の重要文化財「多聞櫓」を市民の方々が利用し, 親しんでもらう事業の第1弾として「てのひら盆栽づくり at 多聞櫓」が行われました。

てのひら盆栽は大きさこそ小ぶりですが, 盆栽の世界観が凝縮された本格的なもので, ワークショップの参加者は盆栽づくりに没頭していました。

また櫓内では、多聞櫓とのコラボ展示であるかわらばち瓦鉢の盆栽や、室内空間の特徴を活かした季節感のある盆栽などが展示されました。日頃は盆栽に関心のない方や、外国人旅行者のみなさんにも大変好評で、480名もの来場者がありました。



瓦鉢の盆栽



展示見学の様子

今後, 第2弾の実施も検討していますので, 様々な活用のアイデアを, 史跡整備活用課までお寄せください。

→幕末の女流歌人・野村望東尼

のむらぼうとうに

～明治維新150年～

まごころをつくしのきぬは 国のため

まぢかへるべき 衣手にせよ

これは、幕末の女流歌人・野村望東尼が幕末の志士・
たかすぎしんさく高杉晋作に送ったといわれる歌です。

望東尼は、歌人として活動するかたわら、討幕派の志士たちとも交流し、隠居所であった草庵にかくまうなど、
きん勤王家としても精力的に活動した女性です。

平尾5丁目にある平尾山荘は、望東尼の草庵を復元したものです。命日である11月6日には、望東尼の顕彰や平尾山荘の保存・維持に尽力されている平尾望東会が、毎年、望東尼祭を開催しています。また、平成28年の望東尼の150年忌には、冒頭の歌を刻んだ記念碑が、平尾望東会によって建立され、市に寄付されました。



今年11月の望東尼祭の様子

今年は、明治維新150年。幕末の動乱期、国のために身も心も尽くした望東尼に、ここ平尾山荘で思いを巡らせてみませんか。



山荘と管理棟(展示室)の見学時間は、9時～17時まで。

年中無休で、園内はいつでも見学可能。

復元された草庵と望東尼150年忌記念碑

～発掘ミュージアム～

→ さかさま「甕棺」

やながばる
弥永原遺跡
おさ
(南区曰佐)

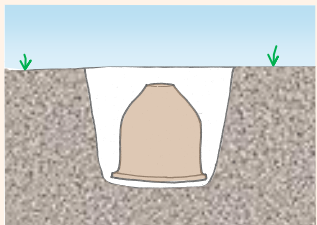
弥生時代，北部九州の特徴的な墓制のひとつに「甕棺墓」があります。読んで字のごとく、甕の形をした土器を棺として使った墓のことで、2つの甕の口を合わせる「合口甕棺」や、1つの甕に板などで蓋をする「単棺」があります。

平成26～28年に行われた弥永原遺跡11～13次調査では、甕棺墓が複数確認されました。このうち13次調査地点の丘陵頂部付近で確認された1基はひときわ異彩をはなっています。

使用された甕は1個体で、この点からいえば「単棺」ですが、注目すべきはその「体勢」で、甕の上下がさかさまに設置された（倒置）状況で確認されました。甕棺は、土の圧力によって押しつぶされていましたが、本来は直立していたと推定されます。この倒置棺は、佐賀県の唐津市で流行しますが、福岡市内ではほとんど見つかっていません。



出土した甕棺



さかさま甕棺の埋葬イメージ

倒置棺が、なぜ曰佐で発見されたのか？弥生時代の人々の交流の実態を解明する上で、ひとつの手掛りになるかもしれません。

→今年の出前授業が終了しました！

～埋蔵文化財センターだより～

4月に飯原小学校から始まった今年の出前授業も、12月7日の鳥飼小学校で終了です。

今年訪問した小学校は53校、受講した小学6年生はなんと4千名以上！市内の4割近くの小学校を訪問したことになります。



授業の風景

出前授業では各校区の遺跡から出土した土器などを持参し、直接手にとって触れることで歴史を身近に感じてもらいます。その後は「火起こし」「銅鏡作り」といった古代の生活体験をします。作業中はみんな真剣そのもの。煙がでたり火がついたりした時は歓声があがります。



火起こし体験の様子

小・中学校で実施する出前授業だけではなく、地域の公民館への出前講座も行っています。来年も実施しますので、ぜひ埋蔵文化財センターの出前授業・出前講座をご利用ください！

～講師の一年間の感想～

校区で出土した本物の土器や石器を手にとって、みんな目を輝かせていたのが印象的でした。校区を一層誇りに感じてもらえたら嬉しいです。



福岡市埋蔵文化財センターの催しなどの情報はホームページをご覧ください。

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>

～身近な文化財を見に行こう～

→ 小学校の地下で タイムスリップ

博多区奈良屋町

博多小学校

石塁遺構展示室

博多小学校にある、
地下へと続くあやしげな階段・・・



展示室の入り口

この階段を下りた先に、鎌倉時代の遺跡がそのまま保存されていることをご存知ですか？

平成10年、小学校の建て替え工事に伴う発掘調査で、50m以上も連なる石塁が見つかりました。この石塁は、鎌倉時代の^{げんこう}大事件・元寇の際に、元軍の来襲に備えて作られた「石築^{いしつい}地」ではないかと考えられています。

地下に残された石塁をよく見てみると、階段を下りて奥側の石の方が少し大きいことに気づきます。手前側は、貿易都市・博多の町。奥側は、元軍が攻めてくる海側。敵軍がやってくる海側に大きな石を積んで、石塁の頑丈さをアピールしようとしたのでしょうか。

ぜひ、現地で確かめてみませんか？

毎週土・日曜日の
10時～17時に開館
しています(12/29
～1/3は休館)。



海側の石塁



→ 12・1月のイベント情報

12月

- 8日 市民講座『鴻臚館学』入門 場所：中央市民センター
「旅愁と望郷—『万葉集』巻十五・遣新羅使の誌—」
講師：田中真理氏（九州産業大学 講師）
- 15日 埋蔵文化財センター考古学講座 第7回
「妖怪になった動物」
講師：香川 雅信 氏（兵庫県立歴史博物館）

1月

- 1日 宇田川原豊年獅子舞（市指定無形民俗文化財）
場所：宇多神社（西区宇田川原）
- 1日 今宿青木獅子舞（市指定無形民俗文化財）
場所：八雲神社（西区今宿上ノ原）
- 2日 金隈の鳶の水（市指定無形民俗文化財）
場所：宝満宮ほか（博多区金の隈1）
- 7日 今宿上町天満宮鬼すべ行事（市指定無形民俗文化財）
場所：今宿上町天満宮（西区今宿3）
- 12日 石釜のトビトビ（市指定無形民俗文化財）
場所：石釜公民館（早良区石釜738）周辺
- 12・13日 志賀海神社歩射祭（県指定無形民俗文化財）
場所：志賀海神社（東区志賀島）
- 13日 今津十一日まつり（市指定無形民俗文化財）
場所：登志神社（西区今津）
- 26日 埋蔵文化財センター考古学講座 第8回
「犬と人の歴史」
講師：内山 幸子 氏（東海大学）

福岡市 経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神 1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること

文化財活用課 TEL:092-711-4666

史跡の整備・活用に関すること

史跡整備活用課 TEL:092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL:092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター TEL:092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！

